

わが国の財政について ―不都合な真実

前財務省事務次官
矢野の康治



- * 一貫して右肩上がりの日本の債務残高
- * 日本が世界最悪の借金国になった理由
- * これでもいいのか受益と負担のバランス
- * 改革しなければ膨張し続ける社会保障
- * 楽観論の妥当性を検証してみる
- * 健康寿命まで働くという視点
- * 消費税の引き下げはありえない選択肢
- * 日本国のバランスシートはどうなっているか
- * 財政規律の歴史的な重要性について
- * 未計上の年金の過去勤務債務

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、前の財務省事務次官の矢野康治さんに来ていただきました。矢野さんは、一橋大学の経済学部を出られて旧大蔵省に入省されまして、その後、内閣官房長官の秘書官をお務めになつて、大臣官房長、主税局長、主計局長を経て事務次官にられました。ちょっと意外なんですけれども、一橋大学ご出身の方で事務次官になったのは初めてだということでした。

内閣官房長官の秘書官ということでは、福田内閣のとき、それから麻生内閣のとき、第2次安倍政権のときと、都合3回もお務めになつておられます。それから、有名な社会保障と税の一体改革、3党合意というのがありましたけれども、そのときの舞台回しというか、実際の対

応を取り仕切った方でもあります。今は、現職で、実はほかのいろんな大学を回って財政の現状についてお話もされているようで、全国を歩いて若者とも話をしているということを先ほどお話しになっておられました。

今日は、皆さんもご承知の有名な論文がありますけれども――ご自身は論文じゃないとおっしゃっていましたが、月刊『文藝春秋』に「このままでは国家財政は破綻する」を現役次官としてお書きになった。これは、非常にインパクトがあつて、政治家の中でそれに激しく反発したりする人も出たわけですから。現在は、それを踏まえてさらに新しくいろいろなことを考えておられると思いますので、それをお聞きしたいと思います。